

日本でのイースター

皆さんはイースターを聞くときは何を思い浮かべますか？

イースターエッグ・イースふくターバニー・エッグハント？

日本では、クリスマス・バレンタイン・ハローウィンが流行りつつありますが、イースターはなかなか定着しないように感じている人が少なくないはずです。それはなぜでしょうか。

ちなみにイースターは何日か、皆さん分かりますか？4月17日です。

それで、去年は何日だったかは知っていますか？4月4日でした。実はそれを書いた僕もネットで調べなきゃいけませんでした。

そうやってイースターの日は毎年変わります。どの規則に沿って決まるかは知っていますか？実はヨーロッパの多くの人が知りません。なぜなら複雑からです。

決まりは次の通り：「春分の日以降、初めての満月が過ぎてからの日曜日」。

複雑でしょう。おまけに、イースターの日計算式（ラテン語では「computus（数える）」と言う）は astronomical（天文学的な）春分の日と満月ではなく、ecclesiastical（キリスト教会上）の春分の日と満月に基いています。春分の日はありがたく教会に3月21日に固定されていますが、満月は古代ローマ帝国の太陰暦をもとにしてのもので、実際の満月と若干のずれがあり、計算が困難です。ですので、ヨーロッパ人がだいたい、毎年カレンダーやネットで調べます。

要するに、クリスマス・バレンタイン・ハローウィンと違って、イースターの日がちが定まっていないことから、日本に定着しにくいと言えます。

日本では現在、ディズニーランドやユニバーサルスタジオジャパンなどの遊園地でのイベントぐらいと言えます。それに、クリスマスと同様にキリスト教との関係を切り離して、うさぎや卵、商業的な要素だけ取り入れられていると言えます。では、イースターはそもそもキリスト教とどんな関係にありますか。キリスト教の前には何がありましたか。その由来を掘り下げてみましょう。

イースターの由来

キリスト教の前

キリスト教がローマ帝国に広がったのは2世紀前後のことですが、その前にもイースターの日のあたりに祝われる行事がありました。

PESSAH

イースターのフランス語の名前、「Pâques」の由来は、ユダヤ教の Pessah（過ぎ越し）にあります。その行事はエジプトの地で奴隷になっていたイスラエルの民が、モーゼに導かれ、パレスチナの地に脱出した故事を記念します。3月末か4月の頭に始まり、7日間続く行事で、その1年間の農作業の始まりでもあります。

OSTERN

昔のゲルマン文化で、春の女神として祀られていた「Ēostre」がいました。イースターという名前がこの女神の名前から来ていると思われています。ウサギもその時からだと考えられています。多産であることから、春、復活と繁栄を祝う春先のシンボルになりました。

キリスト教に吸収されてから

冬至を祝うクリスマスと同じく、イースターはキリスト教がおこる前からある祭りです。キリスト教が、神仏習合と似ていて、以前存在していた要素を吸収する傾向があります。そこで、イースターを春の祭りから、イエス・キリストの復活、いわゆる復活祭にしました。

イエスの死を追悼する

イエス・キリストは、神様の息子で、人間のために地球に生まれたと言われています。「神の子」あるいは救世主であると自称した罪を弟子のユダに被せ、衆議会の裁判にかけられたあと、磔刑（たっけい）に処せられました。その後、十字架から下ろされ墓に埋葬されたが、3日目に復活し、大勢の弟子たちの前に現れたと言われています。復活祭の前にイエスの「荒野での試み」や十字架の受難を記念する「40日間」(Carême) が設けられています。期間中には祈りと食事の節制が行われ、喜びと浄化の時とされます。

スイスでのイースター

フランス語圏

- 鐘の話

フランス語圏のヨーロッパでは、鐘が卵を持って来ると言われています。これには宗教的な理由があります。フランスでは、1年を通じて、教会の鐘は大忙しです。国のあちこちで、1日に数回は鳴り、特にお祝いの日には非常に賑やかに鳴り響きます。しかし、イースター前の木曜日（聖木曜日）（イエス・キリストの死は水曜日・木曜日・金曜日だったと諸説あり）になると、キリストの死の記念日に合わせて鐘は静かになります。鐘が鳴らない理由を聞いている子ども達に、鐘が教皇のいるローマへ、祝別されるために飛んで行ったと言います（祝別はキリスト教で、人や物を聖とするために祈ること）。イースターの当日、イエスの復活に合わせて鐘がまた鳴るようになったときに、ローマから帰ってきたと言われています。しかし、手ぶらでは戻りません。その道すがら、鐘は色をつけた卵とチョコレートを集めて、フランスの行儀の良かった子ども達に配ります。空飛ぶ鐘は、これらの贈り物をイースターの当日に空から落として、人々の庭にばら撒きます。幸運な子ども達は朝目が覚めると、手にバスケットを持って、花や草の間に落ちているご褒美を取りに出かけます。そして鐘は、イエスの復活を祝って、歓喜の鐘を鳴らすのに間に合うよう、それぞれの教会に戻ります。鐘が空を飛び回るところを見ることができる保証はありませんが、教会に戻ってきたことは耳で確かめることができます…

- Nyon（ニヨン）では、泉を飾る習慣が30年前からあります。どこから来たかは不明。

ドイツ語圏

- Bern（ベルン）では卵を使って競うことがあります。
- Zürich（チューリッヒ）では「Zwänzgerle」という習慣があります。意味は20セント投げ。20セントの硬貨を子供に卵に投げ、きれいに卵に刺さらない場合（多くの場合）、子供がその20セント（約24円）をもらいます。卵につけることが非常に難しく、子供たちが大喜びです。

イタリア語圏

Mendrisio（メンドリージオ）では、キリストの最期の一週間を演じる習慣があります。その行事は2019年無形文化遺産の一覧に登録されました。<https://www.ticino.ch/en/commons/details/Processions-of-the-Holy-Week-in-Mendrisio/37413.html>